

日本人会 軽音楽同好会

よもやま話

～令和の軽音Life～

Logo by Yoshie Ishikuri

第一回 「JAS軽音と主要楽器のご紹介」

倶楽部 軽音楽同好会

今回機会をいただいて、シンガポール日本人会軽音楽同好会(通称JAS軽音またはJAS K-ON)より3回にわたって軽音楽などにまつわる話をさせていただくことになりました。これをきっかけに軽音楽に興味を持ってくださったりJAS軽音に参加いただいたりすることがあれば幸いです。よろしければお付き合いください。

JAS軽音では「Enjoy Singapore life with JAS K-ON!」を合言葉に、毎週土曜日夜に日本人会のスタジオで練習やセッションを楽しんだり、定期的に日本人会のオーデトリウムやラウンジでコンサートを開催したりと精力的に活動しています。ただ、今はCOVID-19の影響で大人数で集まれない事もあり、オンラインでパートを個別に自宅で演奏しインターネット経由で編集して音楽ビデオを作ったりと活動を止めることなく楽しんでます。と格好良く言っていますがパソコンやインターネットに習熟したメンバーばかりではなく…このあたりの苦労話は次号で(壮なる予告)。



ジャズバンドもいる多種多様なメンバー
(2019年11月オーデトリウムライブより)

…ここまで書いたところで、何より軽音楽(けいおんがく)とは何でしょう。

昭和生まれ的な方には、中高時代の軽音部といえば3人くらいでフォークギターをかき鳴らし、年老いたボクサーについて熱く歌ったり、文化祭でイギリスの四人組ロックバンドのコピー曲を覚えただてのギターやドラムでイエーイエー披露したり、というイメージかと思います。

通説的には「軽音楽は、日本ではクラシック音楽以外のポピュラー音楽全般を指す」とされています。「クラシック音楽以外」ということは、ヘヴィメタルもデスメタルもスラッシュメタルも実は軽音楽に分類されるわけですが、全然軽い感じしないですね。鉄を打った重い革ジャン着て1600ccくらいの重いアメリカンバイクに乗っていそうです(すごい偏見)。

つまりは我々が何歳からでも気軽に楽器を手に取り演奏する音楽は、たいがいは軽音楽と言ってもよさそうです。

さて、すっかり軽音楽に対するハードルが下がった(?)ところで、軽音楽において代表的なパートのご紹介をします。まだ楽器を始めていない方はこれを参考にぜひ。とは言っても私の偏見と知識の範囲での説明になりますので、もっと詳しく知りたい方は…誰かに聞いてください(笑)。

1. ボーカル

ステージや録音音源の中では常に注目を浴びるがゆえバンドの顔といってもよいでしょう。歌詞を忘れたり間違えたりすると目立つのでビジュアル含めプロ意識が最も強いとも言え、バンドの解散は



オーデトリウムでのコンサートの模様
(2018年10月サタデーナイトライブより)



ライブ後の集合写真
(2019年12月ラウンジでのクリスマスライブより)

大体ボーカルとギターという目立ちたがり屋同士の仲たがいが原因となります。ちなみにライブが恰好いいからといってカラオケがうまいとは限らないので注意。何より狭いカラオケルームであのマイクパフォーマンスをされると迷惑ですね。



注目を一身に集めるボーカルの緊張感は想像に難くない
(2019年1月ラウンジ昭和歌謡ナイトより)

2. ギター(エレキ、アコースティック)

通常は中域6弦からなる、ロックバンドの花形。ギターソロなど目立ちたい時はステージの前に出てこれ見よがしに弾き、演奏に自信がない時は後ろに引っ込むという非常に自分勝手な人間がリードギタリストになりがちです。自分がバンドを引っ張っているという自負が強く、だいたいボーカルとどちらが人気があるかを競います。ただし近年はコンピューターで作成する音楽が主流になりつつあります。ギターの存在感はどんどん薄くなり、ギターソロ自体が邪魔者扱いされるなど、その立場は年々危うくなってきています。



ボトルネック奏法を披露する
リードギタリスト
(2019年7月ラウンジライブより)

代わりにアコースティックギターは一人で演奏し歌えるので在宅時間が長くなってきている昨今、演奏者が増えている模様です。このほかにクラシックギターなどもあります。



アコースティックギターには
譜面台が似合う
(2019年7月ラウンジライブより)

3. ベース

通常は低域4～5弦からなる、バンドでは一番低音を担当する大切な楽器。これがちゃんとしていない曲は聴くに堪えません。しかし低音だけに目立たない縁の下の力持的なポジションなので、楽器を手にしない人からすると「ステージであの人、何をやっているの?」と言われがち。しかも間違えた時だけ異常に目立つ割に合わない楽器でもあります。しかし音楽好きにとっては一番魅力的な担当といってもよいでしょう。



バンドの要、ベース
(日本人会スタジオ2での
練習風景より)

4. ドラムス

打楽器は人間の原始的な衝動を呼び起こす大切なもの。ただし、この楽器は両手足がバラバラに動くので、右手で三角、左手で四角を同時にかけるくらい反射神経(?)が優れていないと上手に叩けないのではないかと思料します。学生バンドサークルでもだいたいドラムスが少なくバンド掛け持ちをよく見かけたのではないのでしょうか。ドラムスとベースがしっかりしているバンドは聴いていて安心します。通常はバンドで一番の人格者。



バンドのノリはドラム次第
(2019年1月ラウンジ昭和歌謡
ナイトより)

5. キーボード(電子、アコースティック)

通常は88の鍵盤からなる、ピアノ音のみならずストリングスやブラスの音を加えたりバンドに色を加える大切な楽器。バンドの中では一番大人で冷静で音楽の知識に精通している場合が多く、楽譜を起こしたり編曲の能力に長けているので、バンド内でキーボードに逆らう人は少ないでしょう。

冷静にバンド全体をコントロール
するキーボーディスト
(2019年9月ラウンジライブより)



6. そのほか

ウクレレはギターに似たハワイ発祥の小さな4弦楽器。非常に手軽なので手を出しやすく、JAS軽音でも愛好者が多数います。

季節問わずウクレレ弾けばそこは常夏
(2019年12月ラウンジでのクリスマスライブより)



カホンはペルー発祥の打楽器の一種。楽器自体に跨って演奏される箱型のもので、ドラムスに代わるリズム楽器として近年の室内演奏でとても重宝されますが、担いでスタジオ練習に向かう際などにはフードデリバリーと間違われることが多いです。

自らが椅子にもなるカホンは
省スペースでエコ
(2019年3月サタデーナイトライブより)



JAS軽音もやま話(第一回)、いかがでしたでしょうか。ニューノーマルで自宅に時間が長くなっている今、新たに、または物置の奥でほこりをかぶっている楽器を引っ張り出して演奏しませんか? 大々的なステージはまだ少し先になりそうですが、ぜひJAS軽音に入って一緒にステージで熱くパフォーマンスしましょう!

なお、シンガポールにはJAS軽音の他にも沢山音楽サークルが存在します。ご自分の志向にあったところを見つけて、折角のシンガポール生活を更に楽しいものにしませんか?

それと、大切なお知らせがあります。来年1月に大々的なビデオライブイベントを企画しています。沢山の方にご視聴いただくとメンバー一同多めに励みになります。

詳しくは、下記のウェブサイトアクセスしていただければ幸いです。

JAS軽音 公式ウェブサイト

< <https://konsingapore.wixsite.com/index> >

ではまた次号で! See you lah!

